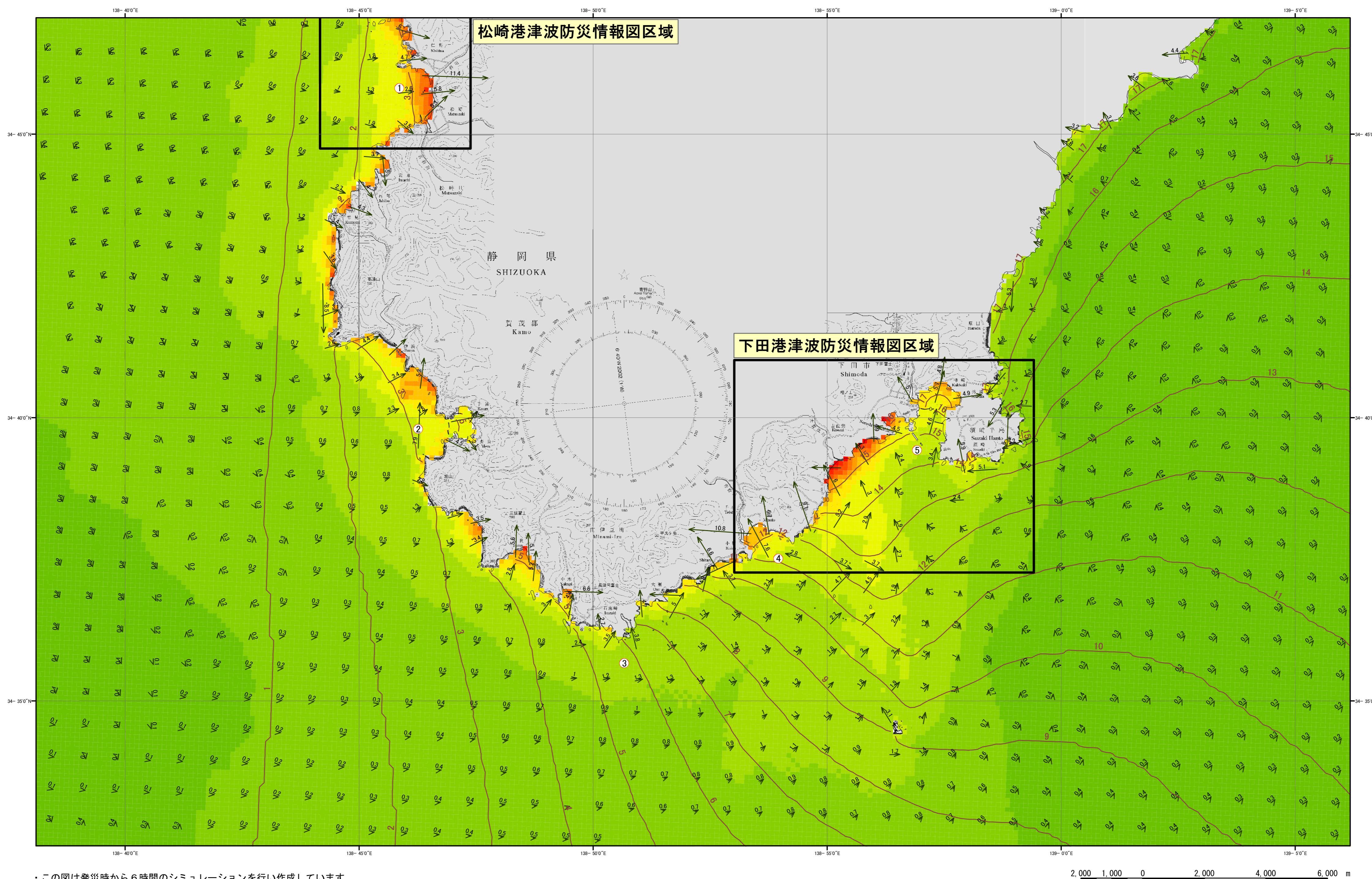


## 想定東海地震による伊豆半島南部津波防災情報図広域版（進入）

計算条件：最高水面・150mメッシュ

隆起量：平均5cm(1cm~39cm)

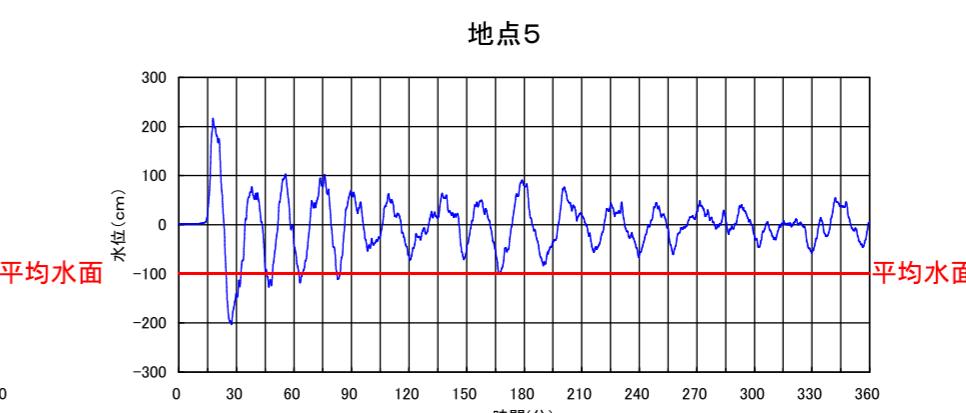
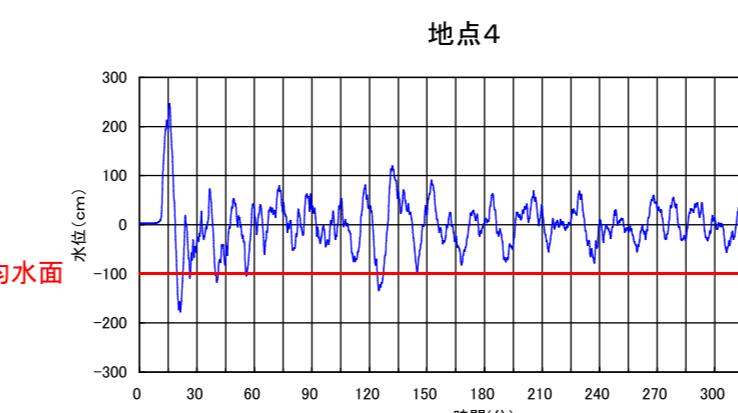
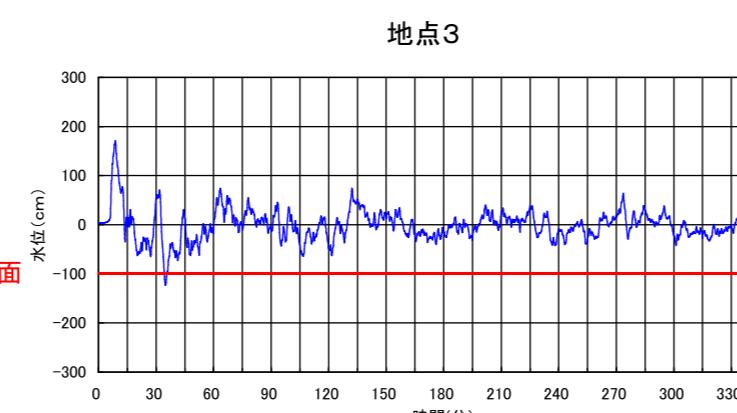
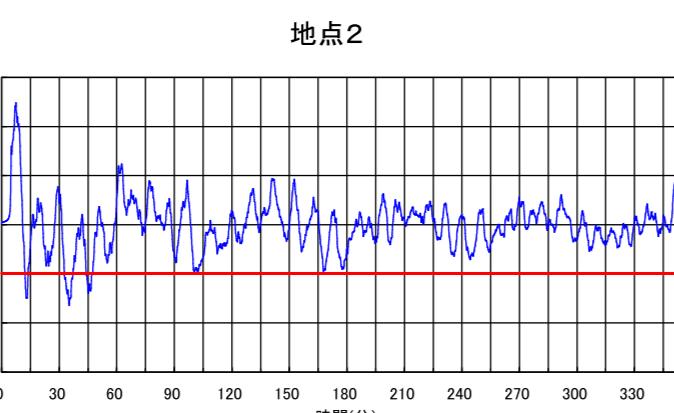
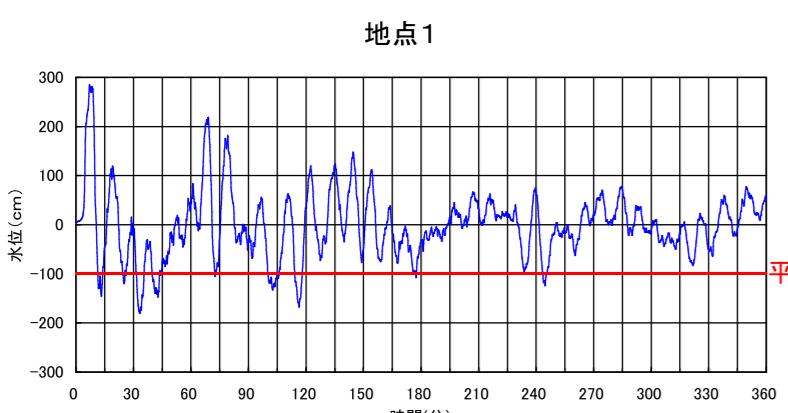
この図は150mメッシュで計算した津波の概要版であり、港湾内や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、「津波防災情報図」(50mメッシュで計算)が整備されている海域はそれを参照してください。



- この図は発災時から6時間のシミュレーションを行なって作成しています。
- 最大大流の矢印は、6時間のシミュレーション時間から150mメッシュ7\*7個(1,050m\*1,050m)の49個から最大のものを表示しています。
- 表示されている流速矢印は津波による流向・流速を示しており、海潮流の要素は考慮されていません。
- 津波の到達時間とは、水位が10cm上昇した時点を算出しています。
- 経時変化図(水位変動のグラフ)は最高水面を基準面として、6時間の津波の水位変動を表示しています。時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
- 経時変化図に記載されている赤線は、潮汐が無いと仮定したときの水面(平均水面)を現しています。
- 陸部の情報は海図から採用しています。
- 計算に使用した地形データは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作製する際の基礎データを使用しています。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号平:15総使、第672号)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。



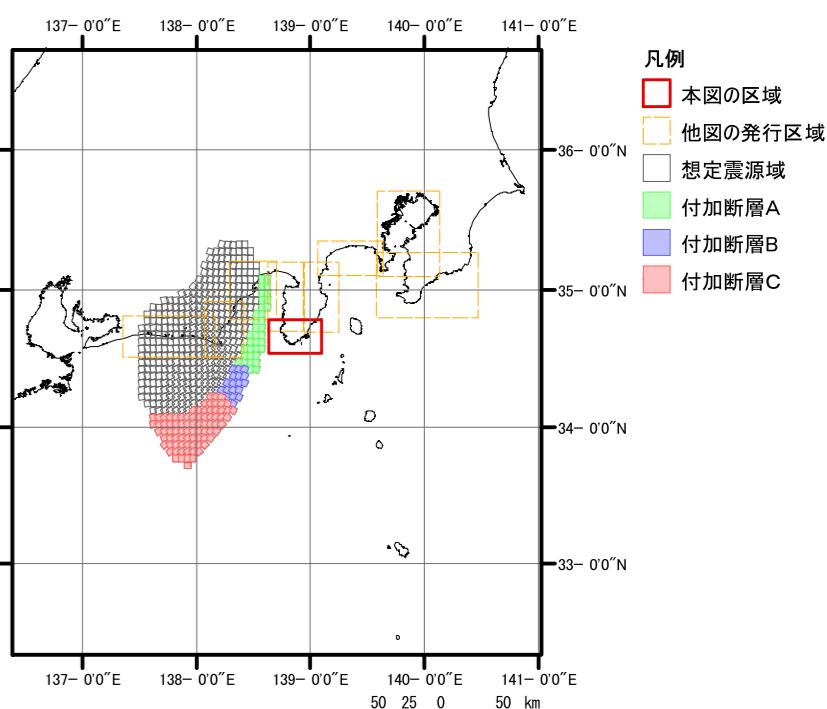
N  
W  
E  
S  
1:75,000  
座標系：ブルガル式法  
測地系：世界測地系(WGS84)

### 凡例

水位上昇(+10cm)となる等線(分)
○ 経時変化図出力点
最大水位上昇
600～最大689cm
550～600cm
500～550cm
450～500cm
400～450cm
350～400cm
300～350cm
250～300cm
200～250cm
150～200cm
100～150cm
50～100cm
50cm未満

進入時最大流 (knot)  
→ 6 knot  
→ 4 knot  
→ 2 knot

本図の区域及び想定震源域と付加断層の位置



	中央の概位	中央の深さ
想定震源域	34°45' N, 138°02' E	1.9 km
付加断層A	34°45' N, 138°30' E	4 km
付加断層B	34°15' N, 138°20' E	6 km
付加断層C	34°00' N, 138°00' E	7 km

本図は、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会」(平成13年12月11日)で公表された断層モデルを使用した。